

キャラクター名
終 雪人 (ひいらぎ ゆきと)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	執事
オプション		年齢	26	性別	男
覚醒	無知	衝動	吸血	初期侵食率	32 %
出自	疎まれた子	経験	海外生活	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2	1	0	2		5	行動値	8
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	8
精神	2	0	0			2	戦闘移動	13
社会	1	0	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
血濡れた凶刃	白兵	5r+1	5	27		侵食: 5、HP-12、赫き剣+破壊の血で生成
血濡れた凶刃100%~	白兵	5r+1	5	32		侵食: 5、HP-12、赫き剣+破壊の血で生成

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 要人への貸し	
コネ: 噂話の友人	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
対抗種	P	N		
終 茉莉香 (ひいらぎ まりか)	P 遺志	N 悔悟		
ミズハ	P 誠意	N 不安		
テレーズ・ブルム	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
影走り	2	1	マイナ	至近	自身	-	-	
効果:	戦闘移動する。離脱も可。他エンゲージ通過可。1シナリオLV回							
赫き剣	5	3	マイナ	至近	自身	-	-	
効果:	[LV×2]以下の任意のHP消費で武器作成(白兵、命中:0、攻撃力:[消費HP]+8、G値:0、至近)							
破壊の血	3	2	マイナ	至近	自身	-	リミット	
効果:	HP-2して赫き剣で作成した武器を強化(攻撃力:+LV×3、G値+5)							
ライトスピード	1	5	マイナ	至近	自身	-	100%	
効果:	C値+1してメジャーアクションを2回行える。1シナリオ1回							
渴きの主	3	4	Xジャー	至近	単体	<白兵>	-	
効果:	装甲無視。素手か赫き剣でダメージ時HPを[LV×4]回復							
始祖の血統	3	4	Xジャー	-	-	シンドローム	100%	
効果:	ダイス+[LV×2]。HP3点消費							
コンセ:ブラム	2	2	Xジャー	至近	自身	シンドローム	-	
効果:	C値-LV							
血の宴	2	2	Xジャー	-	範囲(選択)	シンドローム	-	
効果:	範囲化							
かしずく歯車	1		Xジャー					
効果:	精密な作業を迷いなく行える							
軽功	1		常時					
効果:	とても身軽							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

かつて「終」という富豪のところで執事(兼ボディガード)をしていた。しかし彼一人を残して使用人や来客も含めて一家が皆殺しにされるという惨劇が起き、幸せな日々は唐突に幕を閉じた。その後彼はUGNと出会い、新たな抱負を胸に戦いの日々へと身を投じエージェントと相成った。

基本的に穏やかな佇まいで、オフの時は武上支部の使用人として支部長の世話や掃除等々に励んでいる。が、ある特定のものが嫌いで、それを目にするのと隠したくても隠せないくらい形で嫌悪感を露わにしてしまう。

戦闘になると髪と目の色が変わる。

◆生い立ち
生まれてすぐロッカーに捨てられ海外に売り飛ばされてマフィアに買われる。そして冷酷な暗殺者「モルテ」として育てられる。

ある日、日本での仕事でターゲットに振り返りに遭い瀕死の重傷を負う。ボスに連絡しても繋がらず、捨てられたと気付くのにそう時間はかからなかった。そうして視界もぼやけ始め、自らの死を悟ったところを一人の少女と両親に拾われる。

目を覚ましてからしばらくはマフィアのボスが後始末のために仕向けた刺客だと思い、いつ襲われても良いよう常に警戒し敵意を隠し出していた。しかし動けるようになり、あまりにも敵意を感じない彼はもう少し様子を見ようと、執事兼ボディガードとして雇われたいかという一家の提案に乗る。そうして一緒に過ごす中で、一家が注いでくれたのは本物の愛と優しさという感情だったという事を徐々に知っていく。

執事として誠心誠意仕え続けて数年後、茉莉香が大学を卒業し、本格的に跡取りとしての業務に携わる祝いのパーティが催された。